

## 解説シート

# ハエの楽園、あるいはヴァルター・ベンヤミンのポル・ボウでの最期

---

作 者：エドゥアルド・アロージョ（1937年～2018年）

制作年：1999年

サイズ：352×412 cm

技法・材質：油彩・布、木、鉄

---

## 作家：エドゥアルド・アロージョ

画家、彫刻家、舞台美術家。生地のマドリードでジャーナリズムを学び、1958年、兵役を逃れるべくフランコ政権下のスペインを離れてパリに留学。そのまま同地に定住した。ジャーナリストを目指していたが、生活のために新聞の挿絵を描いたことをきっかけとして独学で画家となり、1960年以降、ヨーロッパ各地のグループ展や個展で発表。名画や広告、漫画からイメージを引用したり、巨匠の様式を借用したりするなどしたパロディ的表現で、当時のスペインの政治状況や権威、慣習を批判・諷刺する作品を制作し、しばしば物議を醸した。こうした作風は、1960年代フランスの新しい具象画の動向「フィギュラシオン・ナラティヴ（物語的具象）」の特徴であり、アロージョは、ジル・アイヨーらとともにこの動向の中心的人物のひとりであった。1969年からは、主にドイツ人演出家クラウス・ミヒャエル・グリューバーとの協働で、舞台美術も手がけている（『ヴァルキューレ』パリ・オペラ座、1976年他）。フランコ死去の翌年にあたる1976年に晴れて帰国が叶い、マドリードを拠点に活動した。2018年10月14日、81歳で死去。

## 作品解説

ヴァルター・ベンヤミン（1892–1940）は、ドイツ系ユダヤ人の文芸批評家・思想家。彼は1940年9月、ナチスの迫害を逃れ、マルセイユから米国に亡命しようとした。しかしフランス出国ビザを入手できなかったため、非合法にフランスからピレネーを徒歩で越えてフランスと国境を接するスペインの町ポル・ボウへ入り、そこからスペイン・ポルトガルを鉄道で移動してリスボンから米国に出国することになった。しかしスペイン側は、ポル・ボウに辿りついたベンヤミンにスペイン国内の通行許可を与えなかった。ベンヤミン到着のわずか数時間前に出され

た訓令で、無国籍者のスペイン通過が禁止されたからである。絶望したベンヤミンはその夜、監置されていたホテルで大量のモルヒネを摂取して自死を遂げた。

この悲劇的な出来事を題材とした本作は、ベンヤミンが命を絶った土地、ポル・ボウの風景と、彼の肖像を組み合わせたものである。鮮やかな色面で構成された海辺の風景の上空に、ベンヤミンの二つの顔が左右対称に浮かんでいるが、右側のそれには眼鏡にヒビが入っている。ベンヤミンの顔の下に配された物体は、逆さになった黒い乳母車である。画面の縁には、カラシ色の枠と黒いハエが描かれており、額縁にも、鉄などで拵えた立体のハエが取り付けられている。ベンヤミンの眼鏡のヒビは彼の死を暗示しており、逆さまの乳母車もまた、死、あるいは不穏な世界情勢の象徴と思われる。ハエは、腐敗や死を連想させるとともに、規則的に整列する黒々とした姿によって軍隊的な、ひいてはファシズム的な国家権力のイメージを喚起する。かつて自らもフランコ独裁政権下のスペインにおける亡命者であったアロージョは、ここでベンヤミンに追悼の意を示すと同時に、悪しき「ハエの樂園」たるスペインを糾弾しているのである。